

## 公益財団法人 博報児童教育振興会「第 48 回博報賞 特別支援教育部門」受賞について

広島文化学園大学広島坂キャンパス

人間健康学部開設準備室

加地信幸

この度、私が代表を務め、広島文化学園大学広島坂キャンパスで実践しております、HBG 重度・重複障害児スポ・レク活動教室「はなまるキッズ」の運動・スポーツの取り組みが、インクルーシブ教育の理念に則った教育的支援活動として、「第 48 回博報賞 特別支援教育部門」を受賞することができました。平成 29 年 11 月 10 日(金)、東京の日本工業倶楽部にて第 48 回博報賞贈呈式が行われ、表彰状と副賞が授与されました。

この「博報賞」とは、博報児童教育振興会が、児童・生徒の「豊かな人間性育成」には、子どもたちと日々直接向き合う教育実践者の役割が非常に大きいと考えられており、児童・生徒に対する日常の教育現場で尽力している、学校・団体・教育実践者を顕彰することを通して、児童教育の現場を活性化させ、支援することを目的としているものです。博報賞は、表彰をスタートさせてから 40 年以上の歴史を持ち、対象部門も拡大しており、すぐれた教育実践の輪を広げています。

私は、身体及び知的にも最重度の障害のある子どもが家庭や学校以外で、楽しめる場所づくりをしたい、参加できるスポーツ教室を定着させたい、という思いから 2007 年に本団体を設立し活動を開始し、今年で 11 年目を迎えました。最重度の障害のある子どもが、車いすから降りて、あぐら座位などのいろいろな姿勢を保持するだけでもスポーツを行っている、という新たな考えをもとに、子どもが参加可能なスポーツ種目を自ら開発・実践し、子どもの身体に直接触れて支援できる専門性の高いボランティア支援者の育成を図るため、定期的に毎月 1 回のスポーツ教室を開催してきました。現在、HBG 重度・重複障害児スポ・レク活動教室「はなまるキッズ」の登録者数は、5～17 歳の最重度の障害のある子どもが設立当初の 7 倍の約 40 人に増加しました。ボランティア支援者は、特別支援学校教諭を中心に、医療職(理学療法士、作業療法士、看護師など)、福祉職(介護福祉士、介護支援専門員、保育士など)をはじめ、一般企業、自営業など多職種の方々が登録してくださっており、現在は設立当初の 12 倍の約 60 人に増加しました。今後も、最重度の障害のある子どもたちが通うことができる、数少ない地域で開催されるスポーツ教室として、子どもたちの定期的な外出機会の保障に努めていきたいと考えています。

この度、このような栄えある賞を受賞できたのは、共に楽しく活動してきた子どもたちはもちろんのこと、保護者や地域の方々、ご指導くださった方々、同僚の方々のおかげであり、多くの方々から理解と協力を得ながら、11 年目に本学の協力を得て活動を継続してきた結果です。このことが大学への貢献にもつながると嬉しく思います。何より、最重度の障害のある子どもたちの活動が認められ、子どもたちが笑顔で楽しむことができる運動・スポーツが可能であることを、子どもたちが証明し続けてくれたことがうれしいです。今回の受賞を励みとして、今後も日々の教育実践と研究に取り組んでいきたいと思っております。